西多摩医師会報

創刊　昭和47年７月　　第295号　平成９年７月

『カワセミ』　細谷純一郎

目　次

頁

1．西多摩地域産業保健センター開設
産業医部 … 2

2．O-157情報連絡会議概要
多摩川保健所 … 4

3．理事会報告　広報部 … 7

4．会員通知・医師会の動き　事務局 … 10

5．各部だより
学術インフォメーション　学術部 … 12

6．文芸随筆諸事百般
保険財政の危機を救うために
吉野住雄 … 13
虫歯の話、歯の話　安富一夫 … 15

7．地区だより
青梅地区　石井好明 … 18
羽村地区　横田卓史 … 19
あきる野地区　樋口昭夫 … 19

8．同好会短信
ゴルフ部コンペ　田村啓彦 … 20
杏展開催　広報部 … 21
写真部懇親批評会　田村啓彦 … 21

9．新人紹介
高木　敏会員 …… 22

10．お知らせ　事務局 … 22

11．表紙のことば　細谷純一郎 … 23

12．あとがき　石井好明 … 23

西多摩地域産業保健センター開設

かねてより受託準備中であった「西多摩地域産業保健センター」が開設の運びとなり、7月7日に開所式を行うこととなりました。

改めて、地域産業保健センターの事業内容等についてご案内申し上げます。

地域産業保健センター事業概要

本邦労働総人口の約半数は、産業医の設置が義務づけられていない、50人以下の小規模事業所に従事しているのが現状です。大手企業に比し遅れがちな、これら小規模事業所に於ける健康・衛生管理の基盤整備を推進するため、平成5年度より労働省の指導下に開始された事業です。

全国の労働基準監督署の管轄地域ごとに郡市医師会に委託し実施されます。（概要図参照）

『西多摩地域産業保健センター』について

設置場所：西多摩医師会館内に設置

事業形態：東京労働基準局を介した国との委託契約

運営方法：『西多摩地域産業保健センター運営協議会』を設置

運営協議会の構成（西多摩医師会、青梅労基署、青梅労働基準協会、コーディネーター）

本年度事業計画案：

1）健康相談窓口の設置（月2回程度）

2）個別訪問産業保健指導の実施（月2回程度）

3）産業保健情報の提供（産業医名簿の作成等）

4）説明会の実施（事業者や労働衛生関係者等を対象とした講習会）

会員にご協力頂きたい業務について

『西多摩地域産業保健センター産業医』に登録の上、業務にご協力願います。

1）健康相談窓口の応談業務

内容：主として健康診断結果に基づいた健康管理、成人病の予防、健康保持増進法、病後における作業との関わり合い等の相談に応じる

場所：西多摩医師会館の他、西多摩の広域性や相談者の利便性に配慮し、各地区の商工会等産業保健関連施設内での開設も検討中

日時：月2回程度開設、登録医が出務し易い時間帯で3時間以内を設定

2）個別訪問産業保健指導業務

内容：希望する事業所を巡視し、健康相談や作業環境改善につき助言、指導を行う

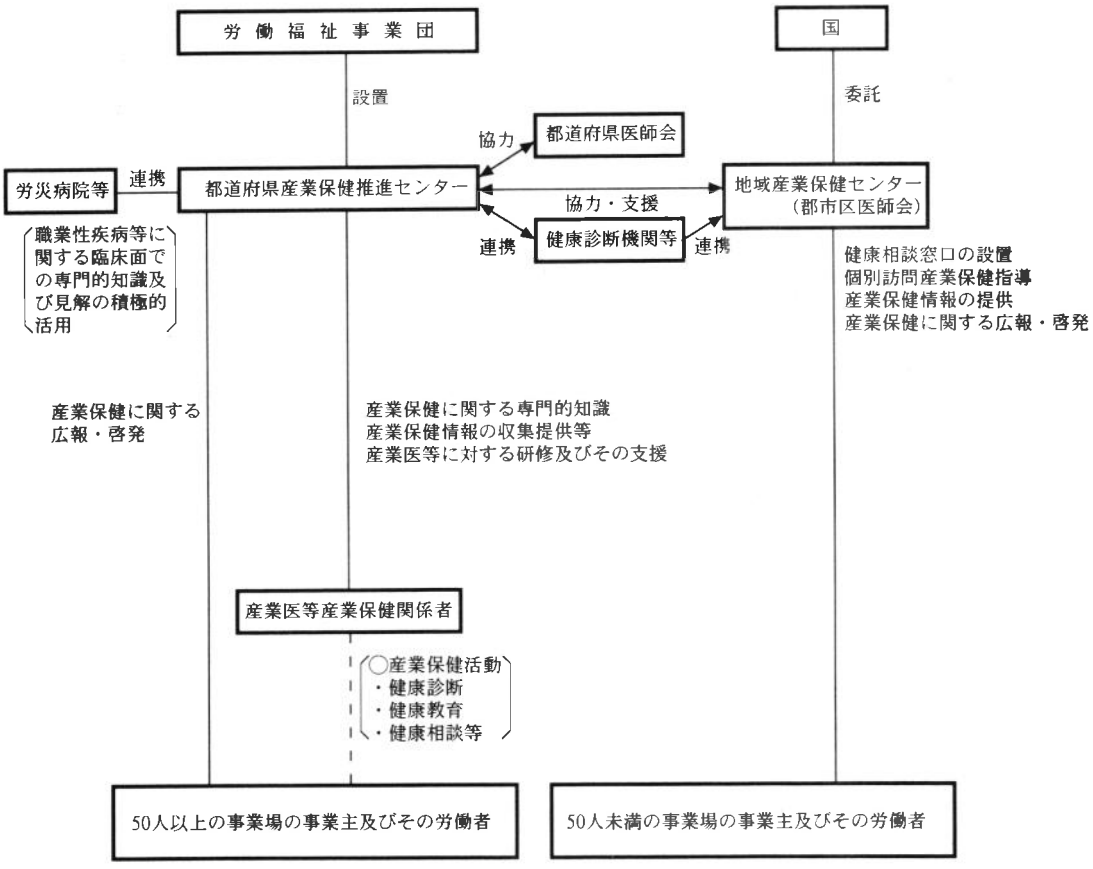
日時：月2回程度実施、登録師が出務し易い時間帯で4時間以内を設定

『西多摩地域産業保健センター産業医』の登録について

西多摩医師会A，B会員で本事業へのご理解ご協力をいただける会員ならどなたでもご登録いただけます。

＊ 日本医師会認定産業医、産業衛生学会の指導医・専門医、労働衛生コンサルタント等の資格をお持ちの会員は是非ともご登録下さい。

産業保健センターについて



腸管出血性大腸菌 O－157 情報連絡会議概要

東京都多摩川保健所

開催日　平成９年６月２日　午後６時から７時30分
会　場　多摩川保健所講堂
出席者　青梅市医師会長外23名

議　事

1　所長あいさつ

出席に対するお礼のあいさつ。

昨年末までの腸管出血性大腸菌O-157の集団発生状況と、１月から現在までの散発的な発生状況について。

O-157以外のサルモネラ菌についての厚生省の対応。

発生予防と万が一の場合は万全を期したい。

３市２町、連携を密にしながら取り組んでいきたい。

2　資料説明

生活衛生課長、保健サービス課長、地域保健推進室長

3　質　疑

◇福生市医師会長

保健所に届けるのはどのような場合か。

◇保健所

集団的に広範囲に発生し場合は至急届け出ていただきたい。

散発的事例でも血便がでた場合は、腸管出血性大腸菌O-157の可能性が大なので届け出ていただきたい。但し、下痢が主症状の場合は、迅速検査でO-157か否か、ベロ毒素が有るか否か、検査結果が１日位でわかるようになったので、迅速検査の場合は結果をみてから届け出ても良いと思われる。

症状が下痢、腹痛を伴う場合に問診で食品の疑いが強い時は、O-157とは別に情報提供をしてほしい。

昨年の教訓として、検査の結果がわからない時点で各段階毎のやりとりで助かった経緯がある。躊躇する場合は一報いただいて一緒に考えたい。

4　報　告

◇青梅市健康課長

O-157対策について各課に照会し現在の対策をまとめた。新たな対策を取っている課も何

箇所かあった。

6月15日の広報に「家庭での対策」を掲載したい。

◇福生市健康管理課長

今年度は市としての対策のための話し合いの場は持たれていないが、6月の広報に掲載し普及啓発する。

◇羽村市福祉部長

これからの対策として広報への掲載、並びにパンフレットを作成する。

◇瑞穂町保健課長

啓発活動として「食中毒から家族を守る」の内容で6月1日の広報に掲載する。

◇奥多摩町保健福祉課長

昨年、奥多摩町病原性大腸菌感染症に関する連絡会を設置した。内部で会議をもち情報交換・提供等の体制をとった。

O-157にかかわらず食中毒一般についての情報提供をしてほしい。

食中毒発生の時期なので広報、有線放送でＰＲする。

◇青梅市学校給食センター所長

保健所の指導のもとに講習会を3回実施した。講習会を重ね調理師の衛生管理、調理方法の万全を図る。

◇福生市学校給食センター所長

今日、保健所の指導で調理、配膳パートを対象に衛生講習会を実施した。

8月にもう1度衛生講習会を実施する。

◇羽村市教育委員会庶務課長

9年度は新たな取り組みはしていないが、調理、配膳、その他学校における衛生管理を小・中学校の校長会並びに教頭会を通じて今後徹底を図る。

◇瑞穂町教育委員会学務係

今のところ教育委員会としての対策は実施していないが、保健課、給食センターと連携をとりO-157対策を進めていきたい。

◇青梅市医師会長

集団発生した時の連絡体制、協力体制についてマニュアルづくりを検討している。

◇福生市医師会長

総会の度に新しい情報を提供している。明日の総会でも報告する。

◇青梅市立総合病院副院長

昨年7月から12月までの間に260余人の疑いのある患者があった。うち9人が入院したが、ベロ毒素はでていない。媒体がわからないので今年の発生が散発的かどうかの判断はむずかしい。如何に、二次感染を防ぐかが大事。

◇奥多摩病院長

疑いのある人は青梅市立総合病院へ送っている。

第一線病院なので会議等で情報収集をし、誤診のないようにしていきたい。

◇青梅食品衛生協会事務局長

保健所からの情報が唯一のもの。

製造日から喫食までの時間帯が長いので細心の注意を払っているが、今後も新しい情報を

提供してほしい。

◇福生食品衛生協会長

新鮮・安全な食品を提供するのが使命なので、食中毒防止については各店舗を巡回して指導している。

衛生責任者の再教育講習会を実施する。

◇福生環境衛生協会長

自治指導員（37名）と保健所職員が一緒に指導をしている。

多業種を対象に、直接は関係ない業種についても適切な対応をしていきたい。

◇青梅集団給食研究会会長

保健所の指導及び情報を得て、施設からO−157を出さないよう心掛けている。

◇福生集団給食研究会会長

保健所の指導のもとに、現場の担当者と研修会等を実施しながら進めている。

福生地区として個別に活動しながら、必要に応じて青梅地区と合同で進めていく。

5　保健所からのお願い

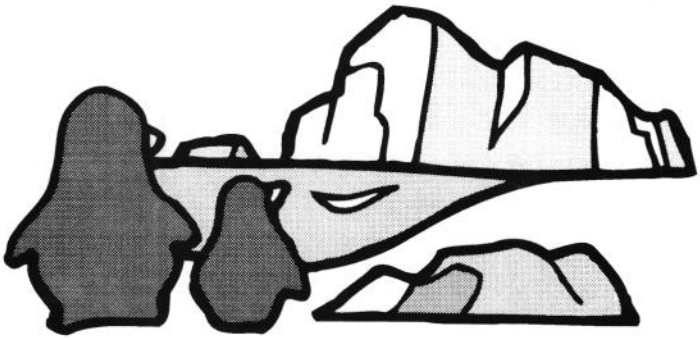
住民ＰＲ等の動きがあった場合は情報提供してほしい。

6　所長あいさつ

有意義な情報提供に対してのお礼のあいさつ。

衛生管理、情報提供・交換を徹底し事故発生を防止したい。

今後、特に問題がなければ情報提供のみとするが、会議の必要性があれば連絡を頂いて相談したい。



理事会報告　★ Information

6月定例理事会　平成9年6月9日　西多摩医師会館

【1】 報告事項

（I）定款施行規則改正検討委員会報告　（真鍋副会長）

議事規定の内容について、討議はほぼ終了。章毎の分類について次回より検討していく。

（II）各部報告　（担当部長）

（保　険）　5月21日診療所の生保立会。特に問題なし。

（III）各地区会よりの報告　（各地区長）

（青　梅）　6月11日役員会、6月末総会予定。

（福　出）　6月3日定時総会開催。8年度の決算報告。互助会、情報伝達委員会の答申について説明。今後、何回かにわたって話合っていく予定。

（あきる野）特になし。

（瑞　穂）　〃

（日の出）　〃

【2】 報告承認事項

（I）入会会員について　── 承認 ──　（玉木理事）

【3】 協議事項

（I）地域産業保健センター事業実施について　（奥野理事）

開所式　7月7日(月)　1時30分より　青梅福祉センターにて開催。

（II）「納涼の夕べ」開催について　（片平理事）

例年通り、7月23日(水)　7時30分より福生西友3Fレストランにて開催。

（III）その他

(1) 西多摩三師会総会を7月5日(土)　4時より、羽村コミュニティーセンター研修室にて開催。

(2) 保険部より

都医で「介護支援専門員養成指導者講習会」を実施予定。3名推薦。

6月定例理事会　平成9年6月24日　西多摩医師会館

【1】　報告事項

（Ⅰ）都医地区医師会長協議会報告　（宮川会長）

1．都医からの伝達

(1)　保健所の機能強化及び所管区域の見直しについて

厚生省健康政策局計画課長より都道府県の衛生主管部長に対し通知があった。

(2)　古紙の利用拡大に向けた古紙使用製品の利用促進依頼について

あらゆる業界へ再生紙の利用促進を働きかける。医師会としても協力したい。

(3)　ＭＸＴＶ取材協力等について

健康家族セミナーを行うので参加して下さい

(4)　日医が実施する第22回医療経済実態調査の協力方について

客体の医療機関（西多摩で５～６ヶ所）は調査に協力してもらいたい。

(5)　医薬品等安全性情報報告への協力方について

医薬品副作用モニター制度はその対象が特定の医療機関に限定されていたが、これからはすべての医療機関を対象とするので協力してもらいたい。

(6)　医療機能連携推進委員会報告書について

医療機能連携推進モデル事業の内容について（浅草、武蔵野市、町田市の各医師会で実施）

(7)　東京都医師会介護支援専門員養成指導者講習会の開催について

(8)　産業医研修会について

各地区で研修会の開催を企画してもらいたい。

(9)　老人保健施設設立状況について

36施設。

(10)　訪問看護ステーション設立状況について

143施設

(11)　在宅介護支援センター設立状況について

120ヶ所

⑿ 平成９年度集団的個別指導の実施について

本人、家族の４ヶ月間の平均点数を基準に。集団指導は240件づつ10月と２月の２回実施。個別指導は60件づつ５回、７，９，11，１，３月の５回実施。

⒀ ベロ毒素吸着剤の治験実施施設について

入院対応とする。清瀬小児、八王子小児病院。患者紹介を希望する。

⒁ 医師向けパンフレット「骨粗しょう症を予防するために」の配布について

東京都衛生局より配布する。

（II）各部報告 （担当部長）

（地域医療部） ５月21日東京労働保険医療協会平成９年度総会出席。予算案、事業計画案を原案通り承認。

（学　校　医） 十三大都市学校医大会報告。

（III）各地区会よりの報告 （各地区長）

（青　梅） ６月11日役員会開催。平成８年度決算報告。互助会問題について討議。青梅市医師会として予防接種センター設立について検討。

（福　生） ６月10日福生三師会開催。

（羽　村） 特になし。

（あきる野） ６月16日地区会、勉強会を行なった。６月20日秋川保健所でO-157情報連絡会議が行なわれ各地区長出席。雨間のビル診予定について報告。

（瑞　穂） 特になし。

（日の出） 〃

（IV）その他

「納涼の夕べ」について （片平理事）

開催案内、協賛のお願い等について報告。

【２】 報告承認事項

（I）入会会員について ── なし ── （玉木理事）

（II）仮称ニューメディア委員会委員の選出について ── 承認 ── （玉木理事）

委員 玉木一弘先生 中野和弘先生

樋口昭夫先生 卞在正先生

山下和雄先生

【3】　協議事項

(I) 西多摩地域産業保健センター事業実施について　　(奥野理事)

予算書、開所式式次第について原案通り承認。西多摩地域産業保健センター運営協議会医師会代表委員について下記の通り承認。

宮　川　栄　次 先生　　奥　野　　仁 先生
玉　木　一　弘 先生　　高　水　松　夫 先生
高　木　　直 先生

(II) 災害時医療救護活動について　　(神尾理事)

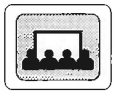
トリアージ研修会の開催日程について。
9月初め頃を予定して計画していく。

会員通知

○学術講演会 (6/10)
○日医認定産業医基礎研修会夏期集中講座について
○平成9年度第1回定時総会
○国家検定対象品目の一部削除に係わる取り扱いについて
○平成9年度医療経営セミナー及び老人保健施設経営セミナーの開催について
○審査・支払事務の委託に伴う過誤調整について
○在宅医療などで生じる感染性廃棄物の取り扱いについて
○平成9年度都医会主催日医生涯教育講座 (8月～11月期) の開催について
○地域医療に携わる各施設への要望の件
○地域産業保健センター事業受託実施について
○第10回健康スポーツ医学講習会の開催について
○平成9年度在宅難病患者緊急一時入院事業の実施について
○納涼の夕べ開催案内
○平成9年度西多摩三師会総会開催通知

各部だより

学術部 Information



《7月の学術講演会》

1　7月14日(月)　7^{30}pm～　於：西多摩医師会館講堂

演題名：「日常診療における不定愁訴の評価と対処」

講　師：東邦大学医学部心療内科助教授　中　野　弘　一　先生

中野先生は、1978年東邦大学医学部卒業、同大心療内科入局後、心身医学会・自律神経学会・プライマリケア学会・臨床心理学会・インポテンス研究会などで御活躍中です。

今回は、我々開業医が各科とも良く診る不定愁訴を中心に、その評価と対処法をわかりやすく解説していただけます。

〈学術講演会聴講メモ〉

平成９年６月10日(火)

演題名：「最近の耐性菌の話題」

講　師：順天堂大学医学部細菌学教授　平　松　啓　一　先生

1960年英国で発売された抗生剤メチシリンに対して翌年には耐性をもつ黄色ブドウ状球菌が出現しＭＲＳＡと呼称されるようになった。ＭＲＳＡとは通常の黄色ブドウ状球菌には見られない Penicillin－binding protein （ＰＢＰ）が存在する事が、電気泳動により発見されＰＢＰ２’と呼ばれた。このＰＢＰ２’はＣをラベルしたペニシリンＧには大量投与により接合する事もわかった。

黄色ブドウ状球菌には１～４までのＰＢＰがあるが、このＭＲＳＡにはＰＢＰ１とＰＢＰ２の間にＰＢＰ２’があり、総てのβ－ラクタム剤に対してＰＢＰ２’の為に耐性を持つ事がわかった。

このＰＢＰ２’を持つＭＲＳＡの遺伝子の内に mec Ａと言われる遺伝子があり、この mec Ａは全く未知の細菌内の遺伝子より取り込んだものであり、その取り込み様式はキメラ遺伝子～モザイク遺伝といった方法により、耐性菌遺伝子伝達法により獲得したものである。

また細胞壁構成成分の変異による耐性菌として、バンコマイシン耐性菌が上げられる。バンコマイシンは日本ではＭＲＳＡ特効薬として近年発売されたが、欧米ではすでに1956年開発され、その構造上、D－alanyl－D－alanin に特異的に結合するため、細菌の細胞

壁のムレインモノマー末端が変化しないので耐性は出来ないとされていたが、1986年バンコマイシン耐性の腸球菌が発見された。欧州ではブロイラー飼育の為、家畜飼料であるavoparcin が大量に使用されていたため、その腸球菌のムレインモノマー末端がD−alanyl−D−lactate に変化したためにバンコマイシンはその抗菌力を失ったのである。また欧米では依然としてペニシリン系が主体であり、日本ではセファロスポリン系が60年代〜90年代にかけて、数世代にわたり使用されつづけた事もその耐性菌増大に関与していると思われる。

このように細菌には、遺伝子伝達情報の交換があり、よって系統図と言ったものは存在せず、net 状変異のみが存在する。このような治療困難な耐性菌の出現を極力避けるためにも、抗菌剤の乱用はさけるべきである。（渡辺）

文芸随筆諸事百般

保険財政の危機を救うために

吉　野　住　雄

——— 殿

医療保険制度改革のため日夜ご苦心されておられることと存じます。制度改革は百家争鳴の時代であります。市井の一開業医でありますが薬剤費を引き下げ医療費全体を引き下げる手段として以下の構想をたてました。
ご検討下されば幸甚に存じます。

提　案

1）○年○月より院内投薬の場合は薬価の90％（または80％）で保険請求するものとする。入院、入院外を問わない。
調剤薬局は当然100％で請求する。
差の10％分（または20％分）は技術料に振り替える。従って薬価差益に含まれるとされる潜在技術料は消滅する。

2）続いて△年△月より注射薬も同じく、薬価の90％（または80％）で保険請求するものとする。入院、入院外を問わない。
注射薬を院外処方し、患者が注射薬を薬局から持参した場合は医療機関は技術料のみを受け取り施用する。

考　案

1）の施行により、おそらくすべての医療機関は短期間に院外処方方式に移行するであろう。

1）と2）が実施されれば全ての薬剤の価格は厚生省の管理下に置かれ、価格引き下げが可能になる。

薬科の引き下げは製薬業界の減益となるだろうから余剰の薬剤師MRを全国津々浦々に開業するよう誘導して調剤薬局を整備する。

薬価の切り下げは薬剤の開発を妨げるとして製薬業界の反対があるが、薬剤の開発も、医療技術の進歩も、もっと緩やかであって良いのではなかろうか。進歩に性急になるよりも現在我々の手にあるものを有効に使うことにより医療経済を立て直すことが今求められていると考える。

医療保険制度改革には利害が錯綜する。正論で解決するほかはない。医薬分業の実現、薬価差益の解消、物と技術の分離を可能にする正論に近い手段と確信している。

1997年４月10日

西多摩医師会会員　吉野住雄

上記の提案をご覧になってどのようにお感じになったでしょうか。趣旨は理解できないではないが、すぐさま賛成する訳にはいかないと言うのが大方のご意見ではないでしょうか。現実に医療機関にとって医業収益の重要な部分を占める（日経５／18では9.9％）薬価差益が消滅するのは重大問題であり、技術料に振り替えると言われても信用できるか怪しいものだ、もし裏切られたら経営が傾きかねないと直感的に悟られたのではないでしょうか。

この提案が実行されると医療担当者に限らず医療に関係するあらゆる分野に経済的に厳しい影響が及ぶでしょう。だから皆渋い顔をすると思います。薬価は当然のこと思い切り引き下げられるはずですから、薬業界は売上は落ちるは、利幅はなくなるはで大打撃を受けるでしょう。調剤薬局だけが喜びそうに見えますが、そのようなことは許されないでしょう。ただひとつの目的、保険財政を立て直すためにはすべての人が協力することが必要なのです。受診者も今年の９月から薬剤費を負担することになりました。しかもそれが理不尽な二重負担であることを皆が等しく承知していてさえなのです。

保険財政が崩壊寸前になったのは何故なのか、誰の責任なのか、議論があるでしょう。議論は大いに必要です。そしてその原因を突き止め、改善しなければなりません。しかし議論している間に現実に保険財政が破綻し、我国が世界に誇る国民皆保険制度が崩れてしまったらどうなるでしょう。まだ保険がなかった時代に病気になった時の痛ましさを記憶しておられるでしょうか。貧しい家庭に育った私はそれを忘れておりません。不幸は国民すべてにふりかかり、我々医療担当者も苦境に立されることは目に見えています。ここは何がなんでも保険財政を立て直さなくてはならない時がきてしまったのです。

以上のような考えに基づいてこの提案を書きました。そして平成９年４月12日付で日本医師会長と厚生省保険局宛に郵送しました。日本医師会　坪井栄孝会長からは受け取った旨の署名入りの葉書がすぐに届きました。しかし厚生省は梨のつぶてでした。くずかごにポイされたのかといささか悔しい思いもあり、厚生省に知己の多いＡ病院のＢ先生にこの提案を送りご意見を伺いました。Ｂ先生からはすぐにさらなる説明を求めるＦＡＸがきたので長文のご返事を差し上げました。その後のことは分からないのですが多分厚生省になんらかの形で届いたであろうと勝手に考えております。お役所が相手では力んでみても詮ないことと思いますが無視されるのは愉快なことではありません。

どうなるかなと注意して過ごしておりましたところ、４月29日付朝日新聞の社説に参照薬価制度の導入に賛成していると受け取れる論調が見られたので、参照薬価には反対である旨とともに私の提案に添えて私が昭和56年８月西多摩医師会報106号に「医療費改定と薬価切り下げの意味するもの」と題して書いた一文を郵送しました。この16年前に書いた時論は今読み返しても直すところがありません。しかし朝日からは何の反応もありませんでした。やはりポイされたのでしょうか。

それからしばらくして５月25日、中国四国医師会連合総会（岡山）と近畿医師会連合委員総会（大阪）に出席した日医　坪井会長は「薬剤費は購入価格で請求することにしたらどうか、薬価差に相当する部分は技術料に振り替えて貰うのはどうだろうか」というご発言をされたことを知りました。たぶん保険医新聞で読んだのではないかと思いますが手許に現物がないので確実でないのは申し訳ありません。出席者から会長への質問が、その他の事項に集中していたと書かれていたところをみると、「薬価費は購入価格で請求する」ことの意味が出席会員に理解されていなかったように私には思えます。薬剤のＲ幅が10％であることを考えれば、「薬剤費は購入価格

で請求する」ことと私の提案とは内容は全く同じであることが理解されるでしょう。ただし前者の方が私の提案よりもずっと表現がソフトになっているに過ぎないのです。私は自分の提案が医師会上層部で検討されたらしいことを悟り、いささか喜びを感じました。前記二つの総会の記事は医事新報５月31日号78頁にも一部記載されています。

その後しばらくして同じく医事新報６月14日号83頁によると日医の糸氏副会長は６月６日、参議院厚生委員会で意見陳述を行い、「私見であり、日医の意見ではない」と断りながら、「薬価の一律10％カットで財政危機を乗り切り、抜本改革までの時をかせぐ」ことを提案されました。これを読み私の提案が日医内部で検討されたことを確信しました。６月20日元西多摩医師会長　西村邦康先生からＦＡＸが入り、６月18日から20日にかけての日経新聞の特集「医療保険できるか抜本改革」の記事を知らせて頂きました。その一部には次のように記されていました。大手製薬企業首脳は最近、厚生省幹部から厳しい表情でこう問いかけられた。「来春に薬価を一律10％カットしたいのだが、どうだろうか」と。私の提案は厚生省内部でも検討されていたらしいことを知り、救われた気持ちになりました。

以上が私の提案の顛末です。私は東京の西の端の小さな医師会に属し、何の役職も勤めていない、ただの医師会員に過ぎません。末端の声に大きな組織が耳を傾けてくれたと自分勝手に思い込み、ひとり勝手に喜んでいるに過ぎないのかも知れません。おめでたいと言われればその通りでしょう。しかし、もしも本当に私の提案を取り上げ検討して下さった方々がおられるなら、声を拾い上げて下さった方々に心からお礼を述べたいと思います。今回の提案を書くにあたってその基盤になるいろいろの考えについても詳しく述べたいところですが、長くなるとご迷惑になると思い取りやめました。

1997年６月22日

虫歯の話、歯の話

安　富　一　夫

歯は、脊椎動物の全てに見られる器官である。無脊椎動物でも、カタツムリの歯舌器やウニの類歯器やヤツメウナギの角質歯のように歯を持つものもあるが、貝殻のような燐酸石灰や爪のようなキチン質である。アパタイトで構成されている歯を真歯といい、脊椎動物になって初めて発生した器官である。

現生種でも化石でも、哺乳類の分類や生態の進化を知る上で、歯は重要な器官となっている。歯は硬い組織であり、骨と同じで、溶けたり腐ったりせず、死後に残るものは、歯は骨だけである。人類学、古生物学、法医学で、歯が最後の決め手になる理由である。

歯列の形、咬耗の状態、歯の萌出状態、歯数が調べられ、その動物の生態、とりわけ食性に関係して独自の進化をし、歯と顎骨の関係でも変化するので、生前の生活や癖までが読み取れる。専門家なら一本の歯でもその形態から萌出部位が指定できる。

英国オックスフォード大学分子医学研究所のブライアン・サイクス博士は、イングランド南西部サマセット州の洞窟で完全な形で発見された紀元前七一五〇年、石器時代の人の遺骸の歯髄よりＤＮＡを採取したと言う。遺骸の母親だけから伝わるＤＮＡと周辺の住民二〇人のＤＮＡを調査比較し一致した人があり、遺骸の子孫であることが確定されたという新聞記事があった。現在では珍しい検査ではないが、歯髄からＤＮＡを採取したところがユニークである。健康な歯は、ＤＮＡの容

器として申し分のないものであろうから。

死後は、強固で丈夫な歯であるが、生きている間は、容易に虫歯となり崩壊して失われる。特に文明国ではこの傾向が著しい。何故であろうか。

一九世紀も半ばの頃より、世界中の多くの学者、研究者が虫歯の問題に取り組み、莫大な費用が投じられ、多くの学説が発表された。しかし、虫歯との因果関係に関しては、万人に承認されるような論文は出なかった。

一八八九年、アメリカから有名な化学細菌学が発表された。食物中の糖質が細菌によって分解され乳酸のような有機酸が生じ口腔内が酸性になり、エナメル質が溶解され、虫歯が発生するという説である。酸を生産する細菌としては、桿菌、連鎖球菌、放線菌などの仲間が考えられた。エナメル質を溶かすためには、どんな細菌が、どのような糖質から、どんな酸を作るかを決定する必要があったが、不明であった。

近頃の子供に虫歯が多いのは日本のオヤツという習慣が原因であると考えた佐倉さんは、室町時代や明治維新以降の食べ物、習慣、虫歯について調査し、食生活が改善されると日本人の虫歯が増えると言う結論を発表している。

アメリカには斑状歯が多発する地方があり、斑状歯は虫歯になりにくいことが知られていた。原因が調査され研究された結果、飲料水に弗素を一ｐｐｍほど加えると、エナメル質が石灰化する途中で弗素が作用し、表面の構造が変わり、酸に抵抗出来るようになるが、外見の変化はなく虫歯が発生し難くなることが分かった。

日本では京大名誉教授美濃口玄さんが虫歯が減ることを期待し、一九五二年から一九六五年まで、京都大学医学部や京都水道局の協力を得て、京都山科水道に弗素混入の実験をおこない、又、弗素稀釈液を歯の表面に塗布するなどの虫歯予防を指導された。

口腔細菌学者浜田茂幸さんは、虫歯は感染病であると断じ、虫歯の原因について次のように言っている。口腔内の部位の如何にかかわらず、最も分布比率の高い細菌は連鎖球菌である。プラーク（歯垢）、舌背、唾液、歯肉溝から検出し得る或る連鎖球菌が培養条件によって形態が微妙に変異することを発見したＪ．Ｋ．クラークは、この菌をミュータンスと命名して一九二四年に報告している。

この菌は砂糖（スクロース）を加えた培地で育てると、水に溶解しない粘っこいグルカンと言う物質を作る。グルカンは粘稠性が強く、金属やガラスやプラスチックなどの平滑面にも、歯のエナメル質の平滑面にも強固に粘着する。菌はその中で発育し、糖類を発酵させ、酸を作り、エナメル質を溶解し、虫歯の足掛かりを作ると言う。このようにして、ニュータンス菌こそが虫歯を発生させる原因菌であることが分かった。

今回の戦争中や敗戦後、砂糖の無かった時代には子供の虫歯発生が激減したことからも、砂糖と虫歯の関係がはっきりした。ミュータンス菌が虫歯を作る時、手助け役として砂糖が大きな役割を果たしていることが理解された。

ミュータンス菌と砂糖の腐れ縁を絶つ事ができれば、虫歯の発生は低下する筈である。砂糖と構造が似て甘味があり、ミュータンス菌がグルカン産生に利用できない糖があれば、虫歯の出来ない甘味糖として使える。そのような発想で糖が色々と研究され臨床的実験結果からも虫歯の予防効果がある甘味糖が見出され、既に実用されている。

虫歯の日常的予防法として次のような注意を述べている。食後、特に砂糖の多いものを食べたら、すぐ物理的に口中を清潔にすること。食後や寝る前に歯をブラッシングして、歯垢を除くことが一番良い虫歯予防の方法である。

ウーロン茶を飲用することも虫歯の予防に効果があるという。お茶は日常茶飯事といわれるくらいに世界中で飲用されている。茶は製作工程によって茶葉の化学成分は違ってくるが、共通成分としてはポリフェノールが存在する。

ウーロン茶から抽出したウーロン茶ポリフェノールを飼料や水に添加すると、実験動物の虫歯発生が明らかに抑制された。緑茶や紅茶

のポリフェノールにはこの効果はなかった。

ウーロン茶ポリフェノールで口を漱ぐ実験をした成績では、ミュータンスのグルカン合成酵素の活性が抑制され、プラークの形成が妨げられる結果が得られたという。

虫歯で歯を失ったり年をとって歯が抜けた場合、咀嚼機能は著しく低下する。第一大臼歯を一本失うと咀嚼能率は五〇％以下になるという実験成績がある。歯を補い機能を回復させるのが義歯、俗に入れ歯である。義眼は目の機能は果たせないが、義歯は外見のみならず、咀嚼の機能が天然の歯と同じである。人の臓器を代用する物の中で、義歯の技術程素晴らしい物はない。この素晴らしい技術（歯科補綴術）は何時頃からあったかという質問に、解剖学者藤田さんは次のような興味ある答えをしている。

世界の歯学史上、世界最古の義歯は一七三七年頃、近代歯科学の父フランスのフォーシャルさんが老婆のために作った総義歯であると言われていた。

日本の歯学史では、徳川時代の初期に義歯が作られたという史伝はあったが、その実物、証拠品は見当たらなかった。ところが、一九二七年（昭和二年）、徳川三代将軍家光に仕えた柳生飛驒守宗冬の墓から遺体と共に上下総義歯が発見され、史伝は事実であったことが分かった。柳生飛驒守宗冬は一六七五年（延宝三年）九月二九日に六一歳で亡くなっている。今から約三二〇年前、フォーシャルさんより約一〇〇年前である。

この義歯床はツゲの木を彫刻して作り、歯は二本ずつを蠟石に彫刻して義歯の歯茎に嵌め込んである。外国とは異なる独自の技術で作られたことが考えられる。

こうして義歯の史伝は証明されたが、義歯製作や装着に関する記述はなく製作者も分からない。何故、歯科補綴術がこんな早い時期にわが国で進歩していたのか、詳しい事は明らかではない。苦心談もあったろうに残念なことである。

歴代の徳川将軍は、東京の増上寺に埋葬されていた。その遺骨を研究する機会を与えられた人類学者鈴木尚さんは、江戸時代貴族の咀嚼器官と題し、調査成績を発表された。

最も注目すべき点は、将軍の咀嚼器官の弱体化であり、後代になるほど顕著になる。例外なく歯の咬耗がなく、老齢の将軍にあっても全ての歯が萌出した少年時代そのままの咬頭を持っていた。下顎にある各種の咀嚼筋は、骨の付着部から見て、発達が悪かったと推察される。咀嚼に際して、筋肉の力を下顎骨全体に伝えるための力学的構造が、現代人でも見当らぬ位に貧弱であった。これらの特徴が男性、女性、皇族、徳川家出身の別なく共通しているのは、驚きであり興味深いことであったと述べている。

一万二千年前、日本列島に縄文土器が出現した。土器の出現は煮炊きの始まりである。世界的にも早い時期から土器を使い煮炊きを始めた日本人は、柔らかい食物を食べるようになって噛む回数は少なくても良い事になった。生物学の教えの通り、使わない器官は衰える。使わないのならば、と神様、仏様は咀嚼器の退化を決めた。日本人の歯の退化は、世界的に見ても早期に始まっていることが、遺骸の検査によって知られている。

歯の大きさや歯の数を減らし顎の骨を細めることは、柔らかい食物への依存度を増し肉体を特殊化させて人類の生存能力や適応能力を減らすことになる。

周囲を見回すと幼児・少年・少女期を通して堅い食物を食べる機会が昔よりも少なくなっている。幼児の頃から堅い食物を食べる喜びを教えるべきである。スルメのように噛めば噛むほどおいしいという、何か新種の食品を開発し、これを噛むように義務付けるという案はどうであろうか。このままでは将来の日本人の歯に光明はないと考古学者佐原さんは嘆いている。

オーストラリアでは、遂に土器が発明されなかった。原住民アボリジニは毛抜き式の三二本の歯並びのよい歯でたくましく噛んでいる。ただし、彼等は今、煮炊きを覚え新しい調理法を採用した。彼等には日本人の轍を踏ませたくないと思っている。

子供のノドを診るとき、綺麗な乳歯が見える。この時期の虫歯は本当に少なくなった。

これは、父兄・幼児自身に口腔衛生知識を植え付けた歯科医師や歯科医療関係者の努力のお蔭であるが、小学校生徒から以後の虫歯予防は各自の責任であることを教育し、虫歯予防を続けさせなければならない。

（参考書は略す）

東京都福生市熊川 熊川病院

〔参考資料〕

1．歯の科解剖学22版　藤田恒太郎
　1995年金原出版k.k.
2．歯の話　藤田恒太郎
　岩波新書　1974年発行
3．化石サルから日本人まで　鈴木　尚
　岩波新書 803　1974年4月発行
4．考古学の散歩道　田中・佐原編集
　岩波新書　1993年11月
5．真空の海に帆をあげて　I．アシモフ
　早川書房　1988年6月発行
6．虫歯の話　浜田茂幸
　岩波新書 183　1993年第5刷

地区だより

青梅地区　第28回市民健康の集い

1）青梅市三師会・多摩川保健所・青梅市共催の「市民健康の集い」が前夜の雨がウソのように晴れた5月25日（日）、青梅市総合体育館で開かれた。多摩川保健所のスタッフは全員、緑の腕章をつけて新しくなった保健所をアピールしていた。

2）「エプロンシアター」や「大きくなったかな」の広告が効いたのか、例年より幼児連れの参加が目立ち、健康相談は例年を下廻ったが歯科相談は子供が多く、張り合いがあったとのこと。「エプロンシアター」に惹きこまれて見上げる幼児の顔つきが可愛かった。サンドウィッチマンが初登場し、エプロンシアターを応援していた。（以前、チンドン屋さんを登場させたら、近所からウルサイと苦情が来たことを思い出した。）

3）体脂肪測定は前年と同じく行列ができ、先着100名様締切りとなっていた。体力測定にも行列ができ、体育館開放の参加者も増え、衛生相談・エイズ展示などにも、前年以上の関心があったようである。

4）人寄せのアトラクションがないので、講演会の聴衆が減るのではないかという予想通り、直前まで空席が目立ち心配したが、始まる時には何とか恥ずかしくない程になり、正面玄関の受付を通った人も1,200人で、前年の5％減に留まった。

5）講演会「アゴのはたらきの異常病」ーハイポキネティック病とハイパーキネティック病ってなんのことー

（講師は歯科臨床医師　加藤元彦先生）

メモ(1) よくかんで自分の唾液で物を食べるのがよい。今の子供は「飽食・軟食・加工食；偏食・早喰い・流し込み」でよくかんでない。(2) コンビニの真ん中に並んでる物（加工食品）がよくない。(3) ハイポキネティック病は生活習慣病であり、よくかまないことからくるアゴの活動不足病である。生活習慣病は、ペットにもおこっている。(4) 心配（こころくばり）はよいが、心痛はストレスとなってよくない。レム睡眠の時、歯ぎしりする。アゴの活動過剰病ハイパーキネティック病である。身体を動かすことにより、ストレスを緩和する必要がある。

（青梅市健康センター　石井好明）

羽村地区　羽村市医師会学術講演会

「高脂血症治療とその効果」
講師：福生病院院長　中谷矩章先生

去る５月28日　羽村市コミュニティーセンターにおいて本年４月より福生病院院長に就任されました中谷矩章先生をお迎えして、上記学術講演会が開かれました。当日は、内科等の会員を中心に10数名が出席し、高脂血症の我国の権威者であられる先生の、診断と治療のポイントから、最近のトピックスにわたる幅広いお話を１時間以上、熱心に聞き入り、数多くの質問にもお答え頂きました。引き続き、先生を囲む懇親会においても、質問や福生病院に対する会員の要望等で盛り上がり、大いに親睦を深めました。

（横田卓史）

あきる野地区　あきる野市医師会勉強会報告

あきる野市医師会主催の勉強会が６月16日（月）午後７時30分よりあきる野ルピア３Ｆ研修室にて開催された。講師には杏林大学第一内科の蓬田茂先生をお招きして、「高血圧の最新治療について」をテーマに講演していただきました。

あきる野市医師会員だけでなく、市の健康福祉関連で働いていられる看護婦、保健婦の方々も出席されて、40名程の会でした。瀬戸岡先生の司会で勉強会は始まり、蓬田先生に高血圧の基礎から、治療のポイントまで分かり易く、詳しく講演をしていただきました。質疑応答では多くの会員、又市の看護婦さん等より、色々な質問がされました。又、蓬田先生は本年７月より阿伎留病院の腎透析の専門医として赴任されるとの事で、特に腎生検は力を入れてやっていきたいとの事です。

（樋口昭夫）

同好会短信

ゴルフ部コンペ

さる6月1日、入梅前の初夏の陽気の下、関越自動車道沼田インターから程近い初穂カントリークラブ白沢高原コースでゴルフ部コンペが開催されました。

9名の参加があり、結果は新ペリア方式で算出され、グロス83、ネット69.8の好スコアで宮川会長が優勝されました。

前夜からの宿泊組はクラブハウス附設の硫黄泉の露天風呂で酒を飲みながらゆっくり寛ぎ、大いに鋭気を養いました。　（田村啓彦）

順位	氏　名	アウト	イン	グロス	ハンディ	ネット
1位	宮川栄次	39	44	83	13.2	69.8
2位	馬詰良比古	51	45	96	24.0	72.0
3位	片平潤一	56	50	106	33.6	72.4
4位	奥野仁	48	49	97	21.6	75.4
5位	田村啓彦	55	45	100	22.8	77.2
6位	岩尾芳郎	48	49	97	19.2	77.8
7位	瀧川牧人	52	47	99	19.2	79.8
8位	川崎健一郎	60	52	112	31.2	80.8
9位	近藤義智	55	64	119	36.0	83.0

第15回 杏 展（西多摩医師会絵画部展覧会）開 催

西多摩医師会絵画部主催の展覧会が、福生市プチギャラリーにて６月10日より15日まで開催されました。

絵画部の諸先生方の力作が多数展示され、訪れる方の目を楽しませてくれていました。

写真部 懇親批評会

５月20日から26日まで羽村コミュニティーセンターで開催された第19回西多摩医師会写真部写真展も無事終了し、最終日の26日に恒例の懇親批評会が羽村の「吹きよせ」で開かれました。今回は11名による計51点が出展され、写真家の桜井保秋氏を交えて一点一点についての講評と写真談議に花が咲きました。尚、次回の写真展は第20回記念大会となり、12月２日から７日まで福生駅内のプチギャラリーで開催されます。テーマは自由ですので奮って御参加下さい。

（田村啓彦）

新人紹介

青梅市　新町クリニック・
健康管理センター

高木　敏 会員

私は出戻りなのでこの欄でＰＲするのは控えるつもりでした。しかし、８年ぶりなので知らない方がいらっしゃると思い筆をとります。アル中専門病院の勤務が長く、しかも精神科医と違って患者に対する偏見がなかったのでこの業界では変わった内科医として少しは知られています。ただ最近酒を飲み出すと止まらなくなって来たのがちょっと心配です。現在、当クリニックは消化器、循環器、神経内科の３つの専門外来を開いています。一方、健康管理センターは人間ドックや各種の健診と産業医の派遣をしています。私は１年以上かけてやっと50単位を終了しました。しかし、あの講習会はひどかった。開催日が少ない、講師陣がいつも同じ、内容が退屈など。余程の体力と根気と忍耐のある人でないと続かない。ぜひ改善してもらいたいものです。産業医はまだ招かざる客として扱われています。でも法改正により徐々にビジネスチャンスが増えるのではないかと期待してます。

お知らせ

事務局より　お　知　ら　せ

８月（７月診療分）の

保険請求書類提出日

８月８日（金）

―― 正午迄です。 ――

法　律　相　談

西多摩医師会顧問弁護士　鈴木禧八先生による法律相談を毎月第２水曜日午後２時より実施しておりますのでお気軽にご相談下さい。

◎ **相談日**　**７月は９日（水）**
８月は13日（水）の予定です。
◎ 場　所　西多摩医師会館和室
◎ 内　容　医療、土地、金銭貸借、親族、相続問題等民事、刑事に関するどのようなものでも結構です。
◎ 相談料　無　料（但し相談を超える場合は別途）
◎ 申込方法　事前に医師会事務局迄お申込み願います。
（注）先生の都合で相談日を変更することもあります。

表紙のことば

『カワセミ』

鳥の写真を撮る楽しみを覚えてから、はや5～6年が経ちました。近くの多摩川にも色々な鳥がいます。カワセミも居るのですが、同じ所にじっと止まっていません。

この写真は、千葉県市川市大町にて撮影しました。小魚を捕食した後、数分間、枝に止まっていました。

細谷純一郎

あとがき

日本で最初に集検をした人は、司馬遼太郎の「胡蝶の夢」によれば、徳川幕府の奥御医師松本良順だそうです。その対象集団は新選組。200人の隊士の中から、体が不調だと言う70人を診察したところ、感冒・胃腸障害・花柳病の順に多く心臓肥大も1人あり、最後にいやいやながら副長土方歳三に連れられて天才剣士沖田総司が受診し、本人が「労咳でございましょうか」と尋ねたのに対し、良順は病名を言わなかったとのことです。

長崎でオランダ軍医ポンペから西洋の正規の医学教育を受けた良順は養生主義者となり、病気はかからないように気をつけるのが一番と言っていたようです。気に入らなければ斬るつもりで人物を見に来た新選組組長近藤勇と意気投合し、隊士の健康診断をサービスしたのですが、戊辰戦争の時も良順は江戸を脱走して、新選組と共に会津の篭城戦に軍医として参加したのですから、余程、新選組に共感を覚えていたのでしょう。

石井好明

社団法人　西多摩医師会　平成9年7月1日発行

会長　宮川栄次　〒198 東京都青梅市西分3－103　TEL 0428(23)2171・FAX 0428(24)1615

会報編集委員会　樋口昭夫
石井好明　片平潤一　百瀬真一郎　高水松夫
田村啓彦　奥野　仁　小机敏昭

印刷所　マスダ印刷　TEL 0428(22)3047・FAX 0428(22)9993

うれしい
明日が
見えてくる。

夢にあふれた素敵な星の王子様トフィールーと犬のルールーが、たましん総合口座のキャラクターとして人気上昇中。総合口座通帳はじめ、キャッシュカード、2wayカード、定期積金100通帳などで大活躍です。トフィールーと一緒に夢のあるくらしをはじめましょう。

TOFFEEROO
© 1989-1991 SANRIO CO., LTD.
Adrift in a sea of stars,
I could float forever,
Comets tickling my toes...

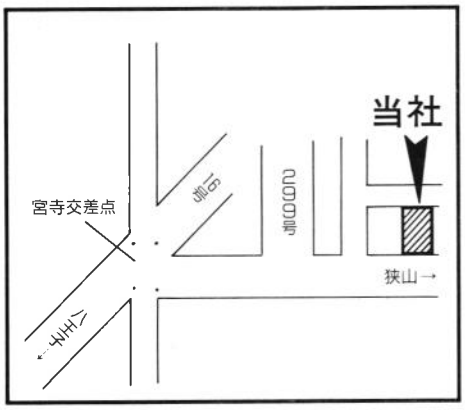
多摩のマイバンク
たましん
多摩中央信用金庫

最新のテクノロジーが計測します
そして、人の眼と心が記録します

臨床検査のパイオニア
保健科学研究所
本　　社 〒240 横浜市保土ヶ谷区神戸町106 TEL/045-333-1661(大代表)
仙台支社 〒983 仙台市宮城野区扇町1−3−5 TEL/022-236-9345(大代表)

健康と未来をみつめて!!

医療機関における各種検査、学校、事業所の検診
御利用の際は御連絡下さい



埼玉県登録衛生検査所

武蔵臨床検査所

所長 杉 田 富 徳

埼玉県入間市上藤沢３０９－８

TEL 0429（64）2621

FAX 0429（64）6659

西多摩医師会主催

納涼の夕べ 開催のご案内

第６回

7月23日（水）午後7時30分より

福生西友レストラン「コルネット」

A会員一万円
B会員五千円

A会員の皆様、三公立病院を始め勤務医の皆々様の多数のご参加をお待ち致しております

お気兼ねなく軽装でご来場下さい